

単なる値上がりでは有りません。プロの材木屋もびっくりする広葉樹原木の暴騰

林 経 新 聞

(第三種郵便物認可)

新材季節も良材品薄

旭川 林産 12月道産広葉樹市

旭川林産協同組合（旭川市永山北一条、高橋秀樹理事長）の12月道産広葉樹銘木市（通算第三百四十二回）は17日、道産広葉樹ほか輸入材あわせ一千八百八十六立方尺（単極のみ）の出品材積で即売された。

旭川林産協同組合が新材。全国から多数の買い手が下見を続けるなど、品薄が定着した広葉樹には高い関心が寄せられた。

今回は北洋材タモ、ナラが約百五十立方尺ほど出品され、ツキ板関係業者が当面の在庫補充の手当て買いをみ

に材質低下が目立ち原料在庫を減らした業者が慎重な応札姿勢で臨んでいたため、商況は全般に小確り気配で終始した。

前月から新材が出回り始めている。その半面、広葉樹資源供給の激減により、適材確保

に材質低下が目立ち原料在庫を減らした業者が慎重な応札姿勢で臨んでいたため、商況は全般に小確り気配で終始した。

タモ	71,227
マカバ	123,009
セパン	87,809
ナラ	56,079
ニレ	33,233
キハダ	43,003
ホホ	36,029
カツラ	49,490
カツカバ	40,596
イタヤ	42,665
メジロカバ	48,673

昭和木材(株)	8,936,976
三津橋産業(株)	5,882,137
カシウラ(株)	5,525,258
吉川木材(株)	5,315,561
吉物林(株)	4,581,281
上坂木材(株)	4,536,865
山下木材店(株)	4,147,509
北見木材(株)	4,083,914
日本製紙木材(株)	3,686,646
天幸木材(株)	3,652,325

せて好値で買い進められた。製材工場も来年上半年の需要に向けた原料仕入れのチャンスとして活発に

応札、全樹種がほぼ強含みへと転じた。全樹種の落札平均単価は前月比4%高の五万六千九百四十四円、売上総額は一億三百三十八万四千円を記録した。一億円突破は今年2月市以来。なお主な樹種の平均単価と買上者ベスト十社は上表のとおり。

上記の記事は木材の専門誌林経新聞の昨年12月23日号の記事です。記事を木材のプロ以外の方も読めば解かると思えますが補足事項が必要だと思しますので、書かせて頂きます。広葉樹シーズンは中盤を過ぎた時点ですが、最近の広葉樹原料のシーズンは早く始まり、早く終わるのがここ最近の最大の特徴です。と言うのは1月以降も旭川にて開催される広葉樹銘木市は2月・3月・4月と続き今シーズン最後の6月まで6回有りますが、良質材の確保は後になればなるだけ不可能になるように思えてならないのです。センの優良材の原木を例に上げると私は11月が一番、量・品質共に最高の出品内容だったと思えます。次が10月そして12月は三番目の内容の良さだと思えます。シーズンの初めに優良材は僅かですが出品されます。その市で買い損ねた方は次回以降で何とか材を確保しようとして、しかし『どの市のどの材が最高の材だったかは、シーズンが完全に終了しなければ解からないし、しかも全ての原木の下見をして入札に参加し、落札出来なくても相場感が解かる方以外は全く解からないのです。』買い手の希望どおり行かないのが普通であると思えます。私は上記記事『適材確保に材質低下が目立ち原料在庫を減らした業者が慎重な応札姿勢で臨んでいたため、商況は全般に小確り気配で終始した』だけでは本当の広葉樹原料の話にはなりません。広葉樹優良材全体の枯渇化に伴い大径原木の超不足、目細材の超不足、その結果として板の巾が狭くなったり暴れる板が多くなったりする事がこれから先確実に多くなると予想されます。

*上記のお買い上げ10社に服部商店は入っていませんが、組合に問い合わせると11番目との事でした。10位との差は僅か48,799円の差です。12月の旭川銘木市の弊社の買い上げ金額3,603,526円(32.290M3)でした。

解かっていない林業政策

昨年(2019年)の12月8日放映BSフジ PM8:00~PM10:00 のプライムニュースにて民主党の平野さんが昭和39年に木材の完全自由化が日本国内の製材工場を潰したことになり、農業の自由化は同じ轍を踏む事はできないからと番組で話をしていましたが、この話は全く現場を知らない方が勝手な事を言っているだけです。

木材の完全自由化で日本の森林が荒廃したのでは有りません。荒廃した理由を下記に書きます。

- 1、昭和29年9月26日に日本を縦断した洞爺丸台風の影響で日本全国に風倒木が大量に発生し広葉樹・針葉樹とも大量に伐採をせざるを得ない環境になり必要以上に伐採をした。
 - 2、高度経済成長の時代国の方針は森林経営でした。具体的には天然林(主に広葉樹)を伐採し人工林(主にスギ・ヒノキ)の単一樹種を植林することでした。
 - 3、昭和50年代中頃過ぎ迄は、住い作りは真壁工法でした。真壁工法では柱のチリが見えるので色物(名古屋地区では役物と言う)所謂無節の柱を使っていた。それが大壁工法の出現で柱のチリが見えなくて良い設計になり無節の柱が不要になった。
 - 4、色物の柱が不要になったせいで、スギ・ヒノキの元一番玉が売れなくなり原木価格が大幅に下がった。約3分の1の価格に下がったことで経営が成り立たなくなってしまった。
 - 5、天然林を伐採した後に植林した針葉樹はユーザーの要求している広葉樹の良さを越えられない。
 - 6、森林と言う生き物は本来自然の法則が有り針葉樹の生える場所・広葉樹の生える場所と決まっているにも拘わらず単一樹種のスギ・ヒノキを大量に植林した事が結果的に特に広葉樹は輸入材に頼らざるを得なくなった。
 - 7、日本のスギ・ヒノキの植林木は主に構造材の柱を生産するには向くが他の部材巾広の板を取るのには不向きである。
 - 8、日本の天然林から生産される針葉樹(スギ・ヒノキ)・広葉樹(ナラ・タモ等々)と人工林のスギ・ヒノキではまるっきり性能が違うにも拘わらず同じような品質の材と勘違いをしている。
 - 9、日本の住いの作り手が大工からプレカット工場主体に変わった事でエンジニアウッド(所謂工業化商品の集成の柱・梁)を多用する方法を安易にとってしまった。
 - 10、日本のスギとアメリカの目荒材の米マツを比較すると日本のスギの方が強度に弱い傾向が有る事すら知らない。簡単に日本の間違った林業政策と間違った木の使い方を1~10の項目を書きましたが、未来に対してどうすればよいのでしょうか。考えられる事を大まかに私なりに書きます。
- 1、政治家が日本人全体の事を考えて大きなスケールの町作りの計画を出して欲しい。将来人口が目に見えて減ってくる時期は直ぐ到来します。その時今の狭い土地に狭い住いを作っているのが本当に正しいのか又新しい町を作るのに痛んでいる森林に、まだ手を入れて人間の勝手な土地利用をこれからも続けるのか国民全員に年金問題同様取り上げて欲しい。
 - 2、現在のプレカット工場は柱の面をコンピューターで見て墨着けをしている為に、日本の植林木スギ・ヒノキの特徴である少しの曲がりでも使えないが、それを使える様にする。昔の大工は柱の芯を見て墨付けをしているので少しの曲がりでも正確な木作りの住まいが出来たのに現在の日本の先端技術で出来ないのは日本人の努力不足である。
 - 3、現在余っているスギ・ヒノキを合板に大量に使おうとしているが、合板用に用途変更しても原木価格の大幅な価格上昇には結びつかないと思います。それよりスギ・ヒノキを使った住いとエンジニアウッド使用の住まいでの税金の負担を変更してはどうか。スギ・ヒノキを使うほうが現在はエンジニアウッドを使うよりコストは掛かるとは思います。将来的に発生する固定資産税等の税金を優遇してはどうか。
 - 4、大阪府でも治水対策に脱ダムの方針で行政を進めようとしているが、脱ダムに欠かせないのが植林事業です。しかしスギ・ヒノキの針葉樹を植林するのではなく場所に合った植林をする。広葉樹・針葉樹ともに植林をする。
 - 5、ただし、単に植林をしたら良いと言うのでは有りません。次のページの記事は2009年4月9日の読売新聞の物ですが、人間が勝手に行う植林が森林後退を及ぼしかねないと書いてあると思います。自然の論理に合った方法

緑化善か

「木材価格の低迷でスキヤノキなどの植林が激減しているが、広葉樹の苗木生産だけは今も減らない。ブナの天然林で知られる白神山などが伐採計画で注目されるようになった1990年代から、人工林を元の山に戻そうという機運が高まったからだ」

こう話すのは、遠くから持ち込まれて植樹されたブナが十分に育っていない異変を長野県中南部で見つけた、県林業総合センターの小山泰弘研究員。長野県では、市町村などが、「自然再生」を目指した造林事業や治山事業で広葉樹の苗を1年当たり約1000株に植林している。本数に換算すると、毎年20万〜30万本になる計算という。



周辺の森で採取した種子による郷土種で植林した富士山静岡空港。空港施設全体を盛り土しており、側面の斜面などに植林している（静岡県提供）

苗の流通 実態つかめず

の配慮が十分とはいえない。広葉樹の苗の生産は、国内全体でも堅調だ。全容を把握している組織はないが、日本緑化センターによると、緑化に使う広葉樹の苗の供給可能量は、2008年度で前年度比2・3%増の6213万本だった。だが、その移動に関しては何の規制もなく、どこでとれた種子を元にしたかわからないまま、大量の苗が各地に出回っている。たとえば長野県は、北海道に次ぐ広葉樹の苗木生産県。生産量は100万本近いが、そのうち70万〜80万本は他県に出荷されている。

苗木生産の業界団体である日本植木協会は、植物をその育った地域に供給する体制の確立に向け、いち早く研究を進めてきた。もともと生息していない地域への動植物の移動を規制する外来生物法の施行（05年）を受けたものだ。

たとえば、食品を対象に普及が進む「トレーサビリティ・システム」と同様の仕組みを、樹木でも作る

アイデアがある。地元で育つ広葉樹から種子を採取して育てた苗は「郷土種」とも呼ばれる。それを、その地域内だけで流通させればよいのだが、この流通システムを全国に広げるには、植えようとしている苗が郷土種かどうかを追跡する必要がある。

その技術的な可能性とは別に、日本植木協会の副会長・地域性植物適用委員会副委員長は、現状がはらむ問題を挙げる。「緑化事業を発注する国や自治体は単年度主義のため、何年か先にどれくらい苗が必要になるかを予測しにくい。それに、植える場所を育った地域に限定すると、単価は通常の1・5〜2倍になる。これらの点がクリアされない」と警告する。

「郷土種による緑化といえどもミティゲーションには違いないが、その植物の遺伝子を保存・再生できるし、環境教育にも役立つ」と山田さん。将来に禍根を残さないとする緑化活動は、始まったばかりだ。（小川祐二郎）

影響を小さくする「最小化」③影響を受ける環境を修復する「修正・修復」——などからなる。日本では開発地の近くに人工林や人工干潟などを造成する「代償」を指すことが多いが、これはミティゲーションの中でも検討順位が低い最後の手段とされている。

が本当は有るのです。と言う事だろうと思いますが、この記事のヒントを理解しているのは材木業者だろうと思います。と言うのは北海道の日高山脈を例に出します。この産地はカツラ・マカバ・アサダ等のどちらかと言えば華やかでない樹種は一流ですが、ナラ・タモ・セン等の華やかな樹種の産地は二番手です。しかし二番手の樹種が有るから一番手の樹種が育つのです。何もかも一番手の樹種を揃えると森林は決して穏やかに育たないのです。その点を上手く選定して植林をしなければ決して将来の日本人を幸福にする森林には育たないのです。

1〜5まで私流の書き方で書きましたが、間違っていたら教えて下さい。

TPPで取り上げられている農業問題は大変な問題です。この事に関してのコメントはしません。しかし過去の林業政策が間違っていた事を叫ぶよりこれから先の日本人に本当に正しい必要な林業政策が何かと言う視点で考え行動していく事が大事であって、今の自民党と民主党がお互いに批判ばかりしている様な事は決して正しくはないと思います。

政治家は正しい話をして頂けるよう御願い致します。

森と林の違い

「森」と「林」の違いというと、いい年をして、「森の方が木が多い」などという人もいます。その正しい答えを知る人は意外と少ない。まず、結論を出しておこう。人の手の入っているのが「林」で、自然に生えているのが「森」である。原則的には、これで間違いない。

広辞苑では、林：樹木の群がり生えた所。森：樹木が茂り立つ所。

国語辞典では、林：広い範囲に木が多数生えた所。森：大きな木がたくさん茂っていて、薄暗くなっている所。

大辞林では、林：樹木がたくさん群がって生えている所。樹木の群落。「森」に比べて、木々の密集の度合いが小さく、小規模の群落を指すことが多い。森：樹木が多くこんもりと生い茂っている所。

上の原稿は私の原稿では有りません。ネットに掲載されていた庄内拓明様の物ですが、加える情報が有るとすれば木材の材と言う字は木に才能の才と言う文字が付いて材です。才能『付加価値・小生が考える付加価値とは適材適所とお客様に安心してご購入求め頂ける商品で有り、お客様の先のお客様は自分のお客であり、安心してお見積もりを頂ける商品を提供する仕事だと考えています。』を付けるのが我々木材業者の仕事です。

植林という言葉が有りますが植森とは言いません。しかし植森をする必要が有るので。その理由を下に書きます。私が思う森のイメージはこうです。針葉樹が好む生育する場所（木とする）と広葉樹が好む生育する場所（木とする）、が有り又両方が繁茂する場所が有ります。（木とする）この3つの条件を兼ね備えているのが森と言う考え方です。そうでなければ我々人間を含めた全体の生態系に悪影響が出るのは間違い無いことです。その証拠が昨年秋口に山から多くのクマ・イノシシが我々の生活する場所に出てきて甚大な経済的被害が出たとマスコミの報道です。

林の付く言葉を少し例に出します。水源林・防風林・砂防林と色んな言葉が存在しますが、水源森・防風森・砂防森とは言いませんね。これは言わば人間が作った物ですよね。上記の庄内氏の話どおりだと思いますが本当は後者の水源森が有るべき姿だと思います。

ところでアメリカの森林は森なのかそれとも林なのか、皆様はどうお考えになりますか。私は、アメリカは林も有ると思いますが我々に林産物を生産してくれるのは森ではないかと思えます。しかし日本と違いアメリカの森は適切に人の手は入っています。アメリカの代表的な広葉樹原木の産地もそうです。五大湖周辺の林産物『広葉樹原料』は林の恵みでは有りません。森の恵みだと思えます。何故森なのでしょう。

私はアメリカの森については以下の様に考えています。人の手が入ってようが、無かろうが森林が自然に近い形で運用されています。売れ行きに合わせて立ち木を伐採する方法は絶対に取っていません。確実に森林の育成量を考えた計画伐採をしているのです。将来の日本は今伐採時期に来ているスギ・ヒノキを取りあえず使い、そして次の新しい林業政策『小生の考える林業政策とは自然に近い山の形成を目指しその為には何の樹種を何処の山にどう言う方法で植林したら良いかを大学の研究者に日本全国の山を調査して頂き、その結論を待って新しい植林方法を取ればよいのではと思います。』を実行するしか方法はないと思えます。

ナラカウンター・ドーナツ店

大阪市天王寺区上汐に1月5日にオープンしたラムズドーナツ様を買って頂いたナラのカウンターを見てください。巾は約600ミリで長さ3000ミリです。オーナー様には凄く喜んで頂いております。使用材は天然乾燥3年以上の荒木サイズ55ミリ厚のロシア産のナラを選んで頂きました。仕上げの厚みは4.7ミリです。

無垢の木材は素晴らしいですねとお客様とお世話してくれた建築士様に誉めて頂きました。



FAX 072-422-8577

第8回勉強会と第3回木材展示即売会のご案内

【勉強会開催のお知らせ】

* 2月11日（金曜日）建国記念日のAM 10:00～11:00の予定で第8回勉強会を開催します。

* 今回の催しも原木の製材ですがウオールナット・タモ・ナラ・チェリーのいずれかの製材を予定しています。

【木材展示即売会・開催のお知らせ】 （勉強会と同時開催です。）

* AM11:00～PM4:30 即売会を催します。

* 展示即売会ならではの商品を数多く取り

* 揃えています。

* お買い得商品も多く取り揃えています。→

* 当日朝8時から営業しています。AM 9時50分までご自由に下見して下さい。

* 小ロット(5枚位～10枚前後)にてお買い求め易い商品も用意しております。

* ナラ・タモ・ブラックチェリー等の角材も用意しています。

* ワンコインサービスをします。当日お持ち帰り頂ける方のみ10,000円以上御買上者に限り阪神高速料金（湾岸線の正規料金）500円をお渡しします。

* 数量まとめ買いのお客様には、当日だけの特別商品をご用意致しています。

* 当日プレナ掛けを希望されるお客様にプレナ（巾500ミリ迄）を掛ける事も出来ます。1枚プレナ掛け（4回通します）加工賃1050円で承ります。

* 来場者に、軽食とお茶を用意させて頂きたいと思っておりますので誠に申し訳ありませんが、準備の段取りが有りますので、出来ましたら早くご連絡頂けるよう御願い致します。



会社名	
来場予定担当者名及び人数	
ご住所	
電話番号とFAX番号	